

第7回 明大昆虫セミナー

DNA マーカーを害虫防除に利用する ～主に天敵利用に関して～

日本 典秀 氏

(農業生物資源研究所)

日時：2010年5月6日(木) 16:30頃～

会場：明治大学生田キャンパス 中央校舎 0412教室

環境負荷低減のために、農作物の生産現場では化学農薬の利用を低減した減農薬・省農薬の動きが年々広まっています。害虫防除において化学農薬を低減させるには天敵昆虫類の利用が必須であり、生物農薬の登録と利用が推進され、土着天敵を保護利用する動きも広がっています。しかし、全ての場面において天敵の利用が成功する訳ではありません。なぜなら、天敵－害虫－作物の三者関係は複雑であり、加えて気象などの環境要因が複雑に重なり合っていることから天敵の効果が不安定になりやすいからです。こうした天敵利用における不安定要因を解決するにはどうしたら良いのでしょうか？

例えば、種や系統の識別、害虫や天敵の移動と分散のトレース、あるいは、食う者－食われる者の関係などの遺伝的な問題については、DNA マーカーの利用が解決の糸口となるかも知れません。本講演では、ここ20年ほどで急速に進展してきた天敵利用におけるDNA マーカーの利用について、その研究の一端を紹介して頂きます。

問い合わせ：

農学部 応用昆虫学研究室 糸山享

(5号館208、内線7810)